

令和5年度(2023年度)金沢大学法科大学院入学試験問題

【C日程入試】法律専門科目試験

刑法 出題の意図

問題1は、刑法総論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1)は、罪刑法定主義の一内容である遡及処罰の禁止に関する基本的な理解を問うものである。日本国憲法に根拠を持つ重要な原則であること並びに遡及処罰が禁止されなければならない理由が正しく論述されていることが必須であり、加えて判例変更や公訴時効の変更・撤廃との関係といった関連する点にまで記述が及んでいれば高評価となる。(2)は、錯誤論の基本類型たる具体的事実の錯誤に関する基本的な理解を問うものである。どのようなケースにおいて問題となるか、法定的符合説と具体的符合説の対立状況について記述されていることが必要である。

問題2は、刑法各論において現在も重要判例が出続けている同時傷害の特例に関する事例問題である。同理論の意義や趣旨などその内容が正しく示されたうえで、本問の中心的ポイントである「同時傷害致死」の可罰性に関する評価が正しく導かれているかを問うている。